

## 学連のすすめ

北信越学生卓球連盟 谷井 宏伎

このたびは、再び私の文章を日学連アゴラに掲載していただき、誠にありがとうございます。2022年から2023年の2年間、北信越学生卓球連盟の副幹事長・幹事長として経験してきた様々な出来事を通して、私が感じたことをまとめます。そして、私の経験をまとめたこの文章が、読んでくださった誰かにとっての、「学連を知るきっかけ」になれば幸いと思いい、福沢諭吉さんの著書「学問のすすめ」に限りなく近いタイトルをつけさせていただきました。

まずは、学連で過ごした2年間を通して感じた、良かったこと、身についたことなどの、明るい側面からお話しします。学連の役員をしている全国各地の大学生や学連に携わる大人の方々と関わる機会が多いため、素敵な出会いが沢山あります。卓球や学連の話はもちろん、大学生活や就活、恋愛の話など、学連を介さなければ出会うことのなかった人との普通の会話は、私にとって一番の癒しでした。1年間で顔を合わせることは数回しかありませんが、「この人たちと出会えてよかった」と心から思える出会いが、そこには必ずあります。学連を通じた出会いがどれほど素晴らしいものなのか、これだけで皆さんに伝わっているとは思えませんが、学連役員としての仕事を全うしてきた私たちだけの特権だとも思うので、この素晴らしさ実感してみたい人は学連役員になってみてはいかがでしょうか。

また、学連の仕事を通して、ExcelやWordなどのスキルが身につき、ビジネスメールの書き方も学べます（詳細に言えば、学ばざるを得ない環境に身を置くこととなります）。やらなければいけないことをまとめて、期限内に終わるよう計画して生活する、というようにタスク管理、計画性も身につきます。私の場合は、北信越学連のHPを一から作成し、運用するという経験もできました。社会に出たことがないので分かりませんが、学連を通して、**ビジネススキルの基礎はある程度身につくのではないかと思います。**

あとからも触れますが、私が経験した「学連の幹事長」というものは、**社会人のような仕事を学生ながらに経験できるところにその価値があると感じました。**ビジネスメールを書いて返信し、Wordで要項を作成し、Excelに記録をまとめ、HPを更新して次の大会準備を進める。大会準備の裏にも多くの人の協力があり、様々な準備があること誰よりも実感する。こんな経験をしている学生は、全国でも数少ないと思います。もちろん卓球以外の競技でもこのような学生はいると思いますが、大会に参加する選手の数と比べればはるかに数少ないのは明らかです。**誰もが経験するようなことではない、とても貴重な経験をすることができるのは、学連の一つの強みです。**

私の場合、2023年に全国大会の運営に深く携わった経験も、かなり印象深く記憶に残っております。全国大会の準備、運営の大変さ、関わっている人や動くお金の多さなど、身を

もって体感できたことは、私の人生にとって、とても良い経験になりました。全国大会に関しては、北陸中日新聞の方にまとめていただいた記事がありますので、もしよろしければこちらをご覧ください。<https://www.chunichi.co.jp/article/805927>  
新聞に掲載いただけたことも、幹事長をやっていて良かったと思えることの一つです。

次に、学連で過ごした2年間を通して感じた、大変だったこと、辛いことなどの、少し暗い側面をお話します。ほとんどの地区の学連が同じだと思いますが、**学連はボランティア活動です**。どんなに仕事を頑張ったとしても時給は発生しません。その割には仕事量も多いし、費やさなければいけない時間もかなりあります。大学を休んで全国大会に出向き、会議に参加することが求められますが、多くの大学ではそれは公欠になりません。また、勉強に手を抜きたくなかった私の場合は、選手として卓球ができる時間を削るしかなく、また、バイトもすべて辞めざるを得ませんでした。**学連の仕事を通して得られるやりがいと引き換えに、失うものもたくさんあると正直思います**。それらの失うものを自ら痛感しながらも最後まで仕事をやり抜くためには、ある程度の責任感が必要だと感じました。

また、学連では社会人のような仕事を学生ながらに経験できるところに価値があると先ほど述べましたが、**良くも悪くも、価値がある**、という方が適切かと思います。良い点は先ほど述べた通りです。マイナスな面としては、自分がどんな状況でも、やらなければいけない仕事が向こうからやってくるということです。何をしてもメールが来たら返信を考えなければいけなく、メールのやり取りは生活の一部になってしまうし、試験期間だったとしてもやらなければいけない仕事、行かなければいけない大会がありました。北海道から帰って次の日の月曜日から試験が始まり、試験が終わった金曜日から愛媛県に移動しなければいけない、なんてこともありました。また、私の場合、メンタルが不安定になってしまい辛くてしんどい時期に全国大会の準備が被り、大変な思いをした時期もありました。その精神状態で全国大会の会場打ち合わせに行かなければいけなかつたり、長い時間シード会議に参加しなければいけなかつたりと、苦しい時間も正直たくさんありました。社会人になったら、自分のメンタルがどんな状況でも、働くことが求められるのだなあ、とそのとき実感し、世の中で働いているすべての人に頭が下がる思いでした。**社会人のような生活を通してスキルが身につくこともありますが、社会人のような辛さを経験せざるを得ないことも事実だと感じます**。

最後になりますが、**良かったことも大変だったこともすべて含めて、学連に2年間携わることができたのは私の人生の財産になったと自信をもって答えることができます**。何も知らない私に、一からご指導ご鞭撻いただいた多くの学連に携わる方々に心から感謝申し上げます。そして、この先、学連役員として仕事に携わる方々に敬意を表すると同時に、この文章が誰かにとっての「学連を知るきっかけ」になることを祈り、文章を締めさせていただきます。最後までお読みいただき、ありがとうございました。